

言語文化学科

# 中国語中国文学コース



## 中国語中国文学コースとは

中国語中国文学コースでは、中国文化論、中国語学、中国文学を研究対象としています。研究対象とする「中国」とは、中国大陸だけでなく、台湾、香港、東南アジアを含む華人世界など、広く中華圏を指します。文化論の分野では、映画などの表象芸術を中心とした研究を行っています。語学分野では、古代から現代に至る中国語の歴史的发展を、文法、音韻、文字の側面から研究しています。文学分野では、唐宋時代の文学について、作品を通して作者と対話しつつ、当時の社会や風俗、文化や政治とも絡めてその作品と人物像を研究しています。ネイティブ教員による授業があり、留学生も多数在籍しており、中国文化を身近に感じながら勉強することができます。楽しく、そして深く学べます。

## 高橋先生の研究

これまで主に唐代の詩人杜牧を研究してきました。名門の家に生まれたものの、時代に翻弄されて挫折を味わい、それでも力強く、そして楽しく生きた人です。「泊秦淮」「題禅院」等センスの良い作品の他に、「張保皋鄭年伝」「賣列女伝」等の冒険譚風人物伝も著しました。その杜牧作品に込められた意図や思想などを検討しています。また唐宋の詩詞における俗語表現も研究しています。漢代頃から現代中国語にまで通じることばの変遷を辿るのは、とても楽しく、発見も多いです。当時の人々が何を思い、どんな風に日々を生きたのか。それを手で掴むようにしっかりと分かってほしい、そして、唐の大雁塔から長安城の街を一望するように俯瞰してみたい、それはどれほど素晴らしいことだろう、というのが私の夢です。



准教授  
たかはし みき  
**高橋 未来**先生



## 中国語中国文学 コースを選んだ理由

私は人と話をするのが大好きなので、世界において会話できる人の数を増やしたいなと思っていました。そんな時に、テレビなどで爆買している中国人の方たちを見て、「この人たちが何を話しているのかわかったら面白いな」と思い中国について学習したいと思いました。

## 中国語中国文学 コースの魅力

語学が学びたくてこのコースを希望しましたが、近隣国である中国の文化や日本人との価値観の違いなどを学ぶこともすごく楽しく感じています。また、他のコースと比べて所属している人数が少ないので、先生方からより丁寧に指導していただけることも魅力に感じています。

## 今後学んで いきたいこと

元から興味を持っていた語学はもちろん、中国と日本の違いを文化や歴史などさまざまな観点から比較して学びたいなと思っています。今はこのような状況ですが、自身が留学に行ったり、留学生の方と交流できる機会があれば積極的に参加したいです。

## 卒論テーマ例

- ・阿来『空山』における慈悲の筆致について
- ・両国における日中合作映画の役割
- ・マンガ『ドラえもん』における擬態語の中国語翻訳について

## 『つづら』と『つづら』

皆さんは毎日、幾つの扉を開けていますか。部屋のドア、玄関、エレベーターの扉……コロナウィルスの蔓延する閉塞的な毎日、皆さんにとっても辛いだらうと思います。扉を開けてみて下さい。それは何の扉でも良いのです。たとえば本。図書館には沢山の本が静かに眠っています。文句も言わずに、ただ皆さんの手で開かれるのを待っています。開いてみて下さい。開けばそこには、「イマ」「ココ」を飛び越えた、違う時代の知らない景色が広がっています。あの日、楚王が雲夢沢に遊んだ日の、一面にはためく龍の旗。或いは雲門寺の外で猛雨の最中にはっきりと見た黒い林。揚州の禅智寺では雨上がりに松の間を吹き抜ける秋の風。誰かがどこかで過ごした「あの日」が、確かにあなたのそばにあります。なぜだろう、昔どこかで見た光景―扉のすぐ向こうには、あなたに似た人が待っているかもしれませぬ。(文・高橋先生)

